

# PCC NEWS & LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.11 2019.11.



## 2019年11月13日 第150回PCC開催

教育講演 「行動経済学の観点から見た意思決定支援」  
大阪大学大学院人間科学研究科 平井 哲 先生

行動経済学とは、人間の心理や感情的な側面をベースに分析される経済学です。人間は必ずしも合理的な行動をするわけではない、という考え方に則って発展した学問で、平井先生は、意思決定が重要な場面で患者と医療者とすれ違う現象を、行動経済学の観点から紐解きながら、医療者がより良い意思決定支援ができるための考え方について説明してくださいました。

意思決定ができない、もしくは医学的には望ましくない意思決定をする患者がいる場合、私たち医療者は、正しく分かりやすい情報提供が不足しているから合理的な意思決定ができない、と考えることもあると思います。しかし、人の意思決定には合理性からずれていく「バイアス」が存在するようで、それは人にとっては自然な反応だそうなんです。先生は講義の中で、患者が持つバイアスについて、私たちの生活の中にある意思決定の場面を例に、分かりやすく解説してくださいました。

今回は、日生薬局 大井町店 管理薬剤師 能登将義先生、さくらナースケアステーション トリピック育子先生にお越しいただき、施設のご紹介をいただきました。

日赤薬局は在宅医療に力を入れている薬局です。能登先生が働いている大井町店には無菌調剤室も完備されており、在宅中心静脈栄養や在宅自己疼痛緩和療法に使用する薬剤を、安全に調剤していただけます。在宅医療は24時間医療従事者がいる病院とは異なるため、処方箋の簡略化が必要であること、また、処方可能な注射薬にも限りがあります。今回先生からは、病院での退院前カンファレンスに参加し、在宅で過ごす患者さんに過不足の無い在宅輸液療法による緩和ケアを継続して提供するため工夫したことを、実際の事例を通して教えていただきました。

講義を通して、患者の合理性を前提として関わるだけでなく、希望や願いを理解し、価値観を共有しながら現状と合致させていくような意思決定支援をしていくためのポイントをたくさん教えていただきました。先生の著書「医療現場の行動経済学すれ違う医者と思」好評発売中です。

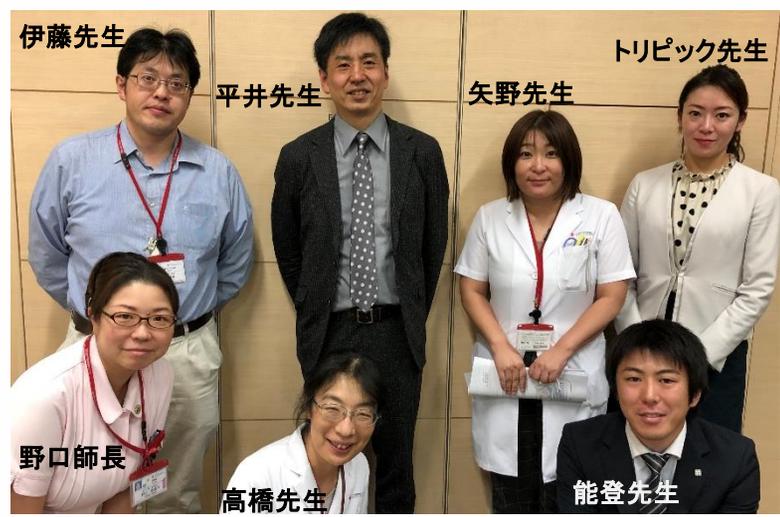
さくらナースケアステーションは、ニューヨーク市にあるVNSNYという施設をモデルとし、「ヒーリングアットホーム(自宅での癒し)」を事業所の理念にされています。中には「笑い療法士」というユニークなスキルを持ったスタッフもいるなど、専門性の高いスタッフが在籍しており、小児から精神疾患、看取りまであらゆる疾患に対応されているそうです。ヒーリングアットホームの実現のために、ACPが重要であることもお話してくださいました。

このような地域の連携先と協力していただけることは、患者さんだけでなく、私たち医療者にとっても心強いですね。

### PCU便り



【クリスマスツリー】  
今年も病棟ラウンジにクリスマスツリーがお目見えしました。季節を感じ、安らぐ場所になっています。



## 第151回緩和ケアカンファレンス

2020年1月8日 19:00~20:45開催予定

第151回PCC教育講演は「(仮)在宅でも活かせるせん妄についてのお話」講師は、日本赤十字社医療センターメンタルヘルス科 福田倫明先生です。せん妄症状の対応で困った経験のある方は少なくありません。いま一度、せん妄症状とその対応方法について一緒に考えてみませんか。なお、本講演は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象になります。ふるってご参加ください。

### 編集後記

2019年最後のPCCも、皆様のおかげで盛況のうちに終えることができました。今後も皆様と協力しながら、地域の方々を支えられるよう、学んでいきたいと思っておりますので、来年もどうぞよろしくお願いいたします。

